

白い猫と青目と難聴

【W 遺伝子と白毛・青い目。難聴との関係】

真っ白な毛と青い目をもつ猫の中には片耳あるいは両耳に聴覚障害・難聴をもつものが多いことはよく知られています。純血白猫10品種を調査した最近の報告では（表1）の様な結果が得られます。

これを白猫の目の色別に集計すると、（表2）のようになり、青い目との関連が強くなるかがえます。



毛を白くする遺伝子はW遺伝子と呼ばれています。W遺伝子はメラノサイトという色素細胞を欠乏させることで、毛色を決定する全ての遺伝子の働きを抑え、他の毛色を消して白くしてしまう優勢遺伝子です。メラノサイトは他に目の色や内耳にあるコルチ器という音の感受器官の形成にも関与しているため、W遺伝子によってメラノサイトが欠乏することと青い目（色素の脱落）や難聴と密接に関連しています。

両側性難聴	10.7%
片側性難聴	9.5%
計	20.2%



【キトン・キャップ（ゴースト・マーキング）】

白猫の仔猫の体の一部に灰色の薄い斑点が出現することがあります。

これは成長とともに消失していくもので、ゴースト・マーキングと呼ばれています。

特に頭部に現れるものを『キトン・キャップ』とも言います。これがあるから白猫ではない、W遺伝子を持たないという誤解がありますが、この斑点は、その子猫が本来持つ毛色がW遺伝子によって抑制された一部に出てきたもので、W遺伝子を持つ子猫にのみ出現するものです。



【白毛・青目の例外】

S遺伝子は、白いスポット（マダラ）を作る遺伝子です。白黒ブチの様な猫はこの遺伝子を持っています。ブチ（色）の部分がほとんどなくなると、全身白い猫が生まれることがあります。しかし外観だけでは、W遺伝子によるものなのか、S遺伝子によるものなのか見分けることはできません。またシャムダイリューション色素遺伝子を持ち猫は、青い目をもちますが難聴との関連はありません



両青目	44.4%が難聴
片青目	20.0%が難聴
他の目の色	18.9%が難聴

【当社の方針】

白い猫では目の色に関わらず難聴になる確率が20.2%あります。また、人のように簡単な検査で難聴を見分けることは困難です。当社ではお客様に安心をお届けするために、目の色の関わらず、キトンキャップを含めた真っ白な毛色の猫は受け入れておりません。ご理解いただきますようお願いいたします。